

テーマ：喜んで与える者としてますます成長していく

●ハドソン・テイラーの葛藤

「腹ぺこだ！ハドソンはイライラしながら、ポケットの中の銀貨を手探っていた。住居に置いてある二杯のかゆをほかにしたら、それが彼の持っている全財産であった。他に食物もお金もなかった。辛うじて考え得ることは、その一枚きりの銀貨を男に分け与えてやることであった。そう思いつくと、急に、意味もなくこの男の存在が煩わしくなり、こんな自体になるまで放っていたことで男を責めた。なぜ、援助を求めていかなかったのか。死にかかっている妻と、その子どもたち、それに対して何もなされていないとは何ということだ。『私は(司祭の元)行ってみました。けれども、あの人たちは明日の朝十一時に出直してくるようにと言ったのです。でも、妻は朝を待たずにいくのではないかと心配しているのです。』と男は暗い顔で言った。この言葉にハドソンは非常に同情した。彼自身の状態もはなはだ心もとないものではあったが、この男の窮状にくらべたらはるかに裕福に思えた。もし二枚の銀貨があったなら、喜んでその一枚を出したであろうに…」

○喜んで与える人へと成長する：六つの動機

3. 喜んで与える人は神様の恵みに_____を置くことができる(8-10)

▶ 原文(8節)：「神は、あなたがたをあらゆる恵みで溢れんばかりにすることができる…」

※アブラハムとサラ(創世記 18:13-14)

「サラはなぜ『私はほんとうに子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言って笑うのか。主に不可能なことがあるのか。」

※モーセやイスラエルの民(出エジプト 15:11)

「主よ。神々のうち、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって力強く、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行うことができますでしょうか。」

※イエスキリストの誕生(ルカ 1:34, 37)

「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」「神にとって不可能なことは一つもありません。」

●二つの目的(8)

①「常にすべてのことに満ち足りて」

※ピリピ 4:11

「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。」

②「すべての良いわざにあふれる者となるためです」

(※詩篇 112:9「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立つ。その角は栄光のうちに高く上げられる。」)

(※イザヤ 55:10「雨や雪が天から降ってもとに戻らず、必ず地を潤し、それに物を生えさせ、芽を出させ、種蒔く者には種を与え、食べる者にはパンを与える。」)

「ハガイ 2 章 8 節で、主は『銀はわたしのもの。金もわたしのもの。- 万軍の主の御告げ -』と述べられていました。つまり、これは『私のお金をどれだけ神に捧げればいいのか』ではなく、『神のお金をひとまず、どれだけ自分の手元に残しておこうか』という問題なのです。』(ドナルド・ホイットニー)

4. 喜んで与える人は神様への_____を生み出す(11-12)

▶「奉仕のわざ」

※ピリピ 2:17

「たとい私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。」

「キリスト者が献金をしないための口実を考え始めると、その者は自動的に恵みを与える領域から外れてしまうのです。恵みは理由を捜し求めることをしません。恵みはただ機会を捜し求めます。もしそこに必要があるなら、恵みに支配されたキリスト者は、その必要を満たすために自分にできることをするのです。』(ウォーレン・ウィーズリー)

○まとめ

●ハドソン・テイラーの喜び

「あわれなハドソン。彼はいったいどうすればよいのだ。その時、突然、読み慣れた山上の説教の一節が思い出された。『求めてくる者には与えよ。』『与えよ!』ゆっくり、ハドソンは手をポケットに差し入れた。一枚きりの銀貨、彼の全財産が出ていくのだ。『あなたは、私のことを金持ちだと思われるかも知れませんが…』ハドソンは銀貨を男に手渡しながら言った。『実際のところ、これが私の持っている全財産なのです。』驚いたことに、ハドソンはそう言いながら、自分の気分が明るくなっていくのに気付いた。…そして、ハドソンは非常な確信を持って、神に頼るべきことを男に説いているのであった。話しながら一方で、ハドソンは自分の感情がすっかり変えられていることにびっくりしていた。彼も、そして、この家族も、共に喜びを分かっているということで心は浮き立っていた。夜風に髪をなびかせ、コート裾をひるがえし、大声で歌いながら行くハドソンには、この世の煩いなど少しもなかった。」